

嘉納治五郎師範遺訓を読む ～ 柔道と平和について ～

大阪高体連道専門部
部長 藤井 光正

嘉納治五郎師範が欧米視察の帰路の船上で、ロシアの海軍士官を投げたというエピソードは有名ですが、その前後に起きた話を知らない方は存外が多いのではないのでしょうか。

まずはこのエピソードが起きる前の経過です。

“立派な体格の海軍士官が力自慢をしているのを見かけた嘉納師範が「私が押さえつければ起き上がれないよ」と言ったところ、それじゃ試しにやってみようという話になり、実際にやってみたところ起き上がれなかった…”

この後に件のエピソードが続きます。

“何度試しても起き上がれない海軍士官が嘉納師範に勝負を申し出、師範もこれを受けて対決となった。大きな海軍士官が師範の背中を両手で抱え左右に捻じろうとしたとき、師範がその力を利用して投げた。師範は、海軍士官の体が床に落ちる寸前に袖を引き、頭から落下するのを防いだ。一部始終を見ていた乗客たちは嘉納師範に大きな拍手を送った。”

ここまでの話なら武勇伝のようにも聞こえるのですが、この後の話が肝心です。

嘉納師範はその後、この海軍士官と親交を深め、長い船旅の間に様々なことを語り合ったというのです。

海軍士官の側からみればメンツを潰されたと捉えても不思議ではない状況下で、師範と親しく話ができただけというのは立派です。一方、嘉納師範の側から言えば、立場も考え方も全く違うであろう人と胸襟を開いて親交を深めたというエピソードを通じて、世界に柔道精神を知らしめたことになります。

「精力最善活用」「自他融和共栄」。柔道には平和を希求する思想があるのです。

戦争は遠い国の話ではありません。柔道を志す我々が率先して実行すべきことは、これらの柔道精神を実践し、嘉納師範と同じように平和を愛することではないのでしょうか。今こそ、嘉納師範が残した遺訓を道標として進むべき時です。

柔道は心身の力を最も有効に使用する道である。

その修業は攻撃防禦の練習に由って身體精神を鍛練修養し、斯道の神髓を體得することである。

さうして、是に由って己を完成し世を補益するが柔道修行の究竟の目的である

嘉納治五郎師範の創始した柔道は、今や世界中で親しまれるスポーツになりましたが、その成り立ちを考えれば他の競技との間に明らかな相違があります。

本専門部としても、今一度柔道の本質を見つめ直しその魅力を多くの生徒に伝えることが急務であり、もって減少する部員数を回復させることが喫緊の課題であると考えています。現に柔道部員として活動している高校生のみなさんには、新入生の勧誘に力を尽くしてくれることを期待しています。

今年度の本専門部の事業が安全に滞りなく実施されることを願い、本府における高校柔道の発展を祈念して巻頭のご挨拶といたします。